シリーズ建築のみかた 第３回「言葉と写真と建築」

※建築雑誌６月号、７月号掲載と、開催日等が変更しております。

古来建築は人々の生活を守るシェルターであると同時に、人々の営みや行為、活動や元気を映す鏡であったと思います。現在「建築」の置かれている状況はとても厳しく、建築を通して夢を語ったり、建築そのものに勇気づけられることが少なくなっているように感じられます。

この背景には、建築の包含するものが多岐にわたり細分化していること、建築に求められる役割そのものが時代とともに変化してきていること、それらが建築をとりまく状況をより複雑なものにしていることがあります。

原点に、あるいは少し建築の外側に立って、建築が抱え込んでいる様々な課題について考えていきたいと思います。同時にそれが、私たちを励まし勇気づけてくれる建築の姿を描く一端になればと考えています。

３年目をむかえた本年は、「言葉と写真と建築」と題して、写真（映像）と言葉に着目します。フランス人女優エマニュエル・リヴァが戦後の広島を撮影した「HIROSHIMA 1958（インスクリプト刊 2008)」を題材として復興期の都市の写真から言葉を紡ぎます。

プログラムは２部構成。第１部はリヴァ来日のきっかけともなった広島を舞台とした映画「ヒロシマモナムール（邦題：24 時間の情事)」を鑑賞し撮影者の視点を探ります。第２部では、「HIROSHIMA1958」を谷川俊太郎さん（詩人）とともに鑑賞、考え、楽しみます。

主催：日本建築学会関東支部
日時：9 月 20 日（火）16:00～20:30

第１部「ヒロシマモナムール」上映会　16:00～18:15
会場：建築会館ホール（東京都港区芝 5-26-20）
案内：戸田　穣（金沢工業大学)、山岸　剛（写真家）
定員：200 名（当日先着順）　参加費：無料

第 2 部「HIROSHIMA1958」×谷川俊太郎　18:30～20:30
会場：建築会館イベント広場（東京都港区芝 5-26-20）
プログラム
司会：加藤詞史（建築家）
講師：谷川俊太郎（詩人)、山岸剛（写真家）
定員：200 名（当日先着順）　参加費：500 円

同時開催：「HIROSHIMA1958」写真展
会期：9 月 13 日（火）～20 日（火）
会場：建築会館ギャラリー（東京都港区芝 5-26-20）

シリーズ 建築のみかた 第3回「ことば 写真 建築」

エマニュエル リヴァ

HIROSHIMA 1958 を

谷川俊太郎 さんと見る会

■ 第1部　9月20日（火）16:00~18:00
「二十四時間の情事」上映会
場所　建築会館ホール（JR田町駅歩3分）
案内人　戸田穣（建築史家）
山岸剛（写真家）
定員　200名（当日先着順）参加費：無料

■ 第2部 9月20日（火）18:30~20:30
'HIROSHIMA1958' を谷川俊太郎さんと見る会
会場　建築会館中庭（JR田町駅歩3分）
講師　谷川俊太郎（詩人）　山岸剛（写真家）
司会 加藤詞史（建築家）
定員　200名（当日先着順）　参加費：500円

同時開催 「HIROSHIMA1958」 写真展 9月13日（火）-9月20日（火） 建築会館ギャラリー

■ 主催：日本建築学会 関東支部　■ 後援：UIA2011 東京大会　日本組織委員会
■ 協賛：（株）石本建築事務所　（株）大林組　（株）佐藤総合計画　昭和情報プロセス（株）　戸田建設（株）　（株）中島工務店　（株）フジタ　（株）マイスタジオ　（株）安井建築設計事務所　（50音順）　■ 機材協力：東通産業（株）

■ 連絡先：日本建築学会 関東支部　〒108-8414　東京都港区芝5丁目26番20号　Tel.03-3456-2050　kanto@aij.or.jp　森脇

シリーズ 建築のみかた 第3回「ことば　写真　建築」

古来建築は人々の生活を守るシェルターであると同時に、人々の営みや行為、活動や元気を映す鏡であったと思います。現在「建築」の置かれている状況はとても厳しく、建築を通して夢を語ったり、建築そのものに勇気づけられることが少なくなっているように感じられます。この背景には、建築の包含するものが多岐にわたり細分化していること、建築に求められる役割そのものが時代とともに変化してきていること、建築をとりまく状況をより複雑なものになっていることがあります。
原点に、あるいは少し建築の外側に立って、建築が抱え込んでいる様々な課題について考えていきたいと思います。同時にそれが、私たちを励まし勇気づけてくれる建築の姿を描く一端になればと考えています。

３年目をむかえた本年は、「ことば　写真　建築」と題して、写真（映像）とことばに着目します。フランス人女優エマニュエル・リヴァが復興期の広島を撮影した「HIROSHIMA 1958（インスクリプト刊 2008）」を題材として都市の写真から言葉を紡ぎます。

プログラムは２部構成。第一部はリヴァ来日のきっかけともなった広島を舞台とした映画「ヒロシマモナムール(邦題:二十四時間の情事)」を鑑賞し撮影者の視点を探ります。案内人は戸田穣さん（金沢工業大）と山岸剛さん（写真家）。第２部では、「HIROSHIMA1958」を谷川俊太郎さん（詩人）山岸剛さん（写真家）とともに鑑賞、考え、楽しみます。

[HIROSHIMA 1958]　エマニュエル・リヴァ

戦後映画を代表する監督のひとりアラン・レネの長編作品「ヒロシマ・モナムール」（公開時の邦題は『二十四時間の情事』）が 1958 年に撮影された。戦後の広島を舞台に、戦争の記憶と異文化の出会いを描いたこの傑作は、マルグリット・デュラスの原作とともに世界中の人々に親しまれてきた。自らも第二次大戦に苦悩したデュラスの平和へのメッセージは、今日さらに重要さを増しているとも言える。

岡田英次とともに映画に出演したフランス人女優、エマニュエル・リヴァが、当時訪れた広島で撮影した写真が、2007 年発見された。1958 年当時の広島の子供たちを中心に、ロケの様子や当時の町が克明に記録されている貴重な写真である。 6×6サイズのモノクローム写真で、撮影時期は 1958 年の9月初めと思われる。技術的にも、また対象の選択においてもとてもアマチュアとは思えない、卓越した視線が伺える興味深い写真でもある。エマニュエル・リヴァは、これらの写真をカメラとともに大切に保管していたものである。

■プロフィール

エマニュエル・リヴァ（Emmanuelle Riva）
1927 年生まれ。フランスを代表する舞台俳優・映画女優のひとり。映画出演作は 70 本以上を数える。59 年アラン・レネ監督の「ヒロシマ・モナムール」（邦題 「24 時間の情事」）に日本の俳優岡田英次とともに主演、不朽の名作として映画史に残るこの作品の広島ロケの際に、手持ちのカメラで、復興途上にある 50 年前の生活の様子や子供たちを含む市民を撮影した。

谷川 俊太郎（たにかわ しゅんたろう / 詩人）
1931 年 12 月 15 日（昭和 6 年）東京府東京市（現・東京都）生まれ
1952 年、詩集『二十億光年の孤独』でデビュー。1962 年『月火水木金土日のうた』で第 4 回日本レコード大賞作詞賞、1975 年『マザー・グースのうた』で日本翻訳文化賞、1982 年『日々の地図』で第 34 回読売文学賞、1993 年『世間知ラズ』で第 1 回 萩原朔太郎賞、ほか受賞･著書多数。詩の他に作詞、絵本、翻訳、映画脚本など幅広いジャンルで活動。また中国など様々な国で作品が翻訳され世界的な評価も高く得ている。

山岸剛（やまぎし たけし / 写真家）
1976 年川崎市生まれ
2010 ～ 11 年 日本建築学会の会誌『建築雑誌』編集委員。同誌にて連載「ON SITE」として計 24 回、写真作品を発表する。
共著に『映画空間 400 選』、写真提供に『RYOJI SUZUKI COMPLETE WORKS』『日比谷公園ー百年の矜持に学ぶ』他多数。

戸田穣（とだ じょう / 建築史家）
1976 年大阪生まれ
専攻：建築史
東京大学教養学部教養学科卒業。同工学部建築学科卒業。東京大学大学院工学系研究科建築学専攻博士課程修了。2011 年より金沢工業大学講師。
共著に『Le Public et la politique des arts du siècle des Lumières』『Bibliothèques d'architecture』『建築史攷』『映画空間 400 選』　訳書にクロード・パラン『斜めにのびる建築』他

■ 連絡先：日本建築学会関東支部　東京都港区芝 5 丁目 26 番 20 号　Tel.03-3456-2050　kanto@aij.or.jp　森脇